

公平地区

第2層協議体



団体名

公平地区たすけあい協議会

スローガン

困ったときは、おたがいさま！

これまでの歩み

令和2年7月 公平地区たすけあい協議会設立
令和3年10月 高齢者ニーズ調査の実施
ニーズ調査から見た地域課題「情報の発信・取得」と「社会参加」について協議
令和6年5月 公平地区振興協議会へ加入

協議体の特徴

ニーズ調査の結果を丁寧に分析し、情報の発信・取得、そこから社会参加、さらに生活支援について、できるところからひとつずつ協議を進めている。

協議体の構成員は、公平地区社会福祉協議会を中心とし、地区振興協議会、区長会、長寿会、民生児童委員、ボランティア団体等の公平地区各種団体に加え、地区に所在する社会福祉法人が参画し、年に8回程度理事会を開催、年に3回程度協議会を開催。

また、地区内に所在する大学とも協働して事業を実施するなど、多様なネットワークが構築されている。



スマホ教室～in 城西国際大学～の様子

活動実績①

ニーズ調査の結果より、情報の発信・取得が地域課題と捉える。
令和3年6月に会報誌「公平たすけあいだより」第1号を発行。
令和6年10月で第10号を迎えた。

また、会報誌だけでなく、地域の高齢者等が利用できるサービスをまとめた情報誌『高齢世代のための情報誌 公平地区暮らしの便利帳～お互いさま 支えあう 地域の情報誌～』を令和5年6月発行し、高齢者及び支援者に対して情報発信を行った。

活動実績②

○各種団体体験会 令和5年10月開始

高齢者の社会参加を促進するため、地区内の長寿会、ボランティア団体等に働きかけ、各団体への体験会を設定してもらい、会報誌にて参加を広く呼び掛けた。

好評につき、令和6年度も体験会を実施。また、団体によっては、通年で体験を受け入れるなど、交流の窓口を広げるきっかけとなった。

活動実績③

スマホ教室～in 城西国際大学～

情報の発信・取得支援の一環として、地区内に所在する城西国際大学と連携し、令和5年10月高齢者向け「スマホ教室」を開催。高齢者の情報取得支援とともに、社会参加にも繋がる取組となった。好評につき、令和7年1月にもスマホ教室を実施した。

活動実績④

○公平ゆうあいサポート

ニーズ調査の結果から、生活支援の充実が必要と考え、地区内高齢者の方のちょっとした困りごとを解決するため、有償ボランティア団体「公平ゆうあいサポート」を令和6年10月に立ち上げた。

会報誌「公平たすけあいだより」にて、サービスの周知、事務サポーターとライフサポーターの募集を行った。少しずつ地域の方からの認知度が上がっている。

今後は、事務サポーターの定期的な報告会等を実施予定。



公平地区第2層協議体にて発行した情報誌
「公平地区 暮らしの便利帳」